

学校だより 学校評価特集号

平成 27 年 10 月 30 日
京都市立醒泉小学校
校長 高橋 義弘

『学校教育目標』 自ら学び お互いを認め高めあおうとする 心豊かな醒泉の子
～めざす子ども像～ 【粘り強くやり切る子（確かな学力）】 【人や物を大切にする子（豊かな心）】
【たくましい子（健やかな体）】 【夢をもち 伸び続けようとする子】

平素は、本校教育にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、7月に実施いたしました平成27年度前期の学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。保護者の皆様には、お忙しい中、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

今年度は、保護者の皆様も児童も共通の質問項目でアンケートをとり、その実限度を比較しました。よりよい教育のあり方を探り、この結果を生かしていきたいと考えております。

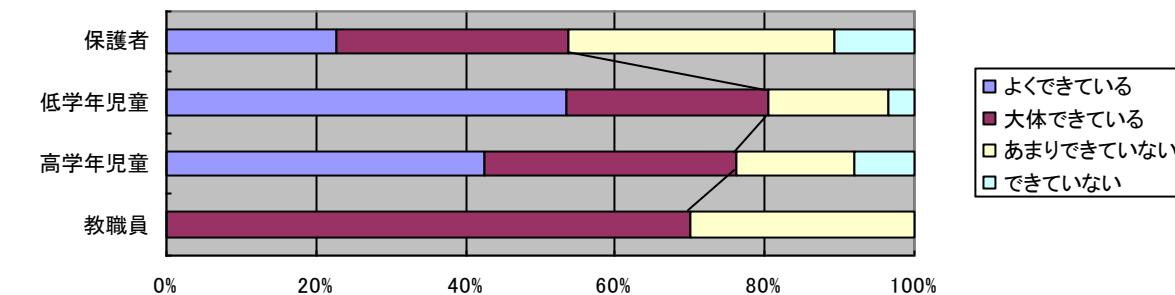
今後とも、ご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。

【アンケート集計結果】（実現度の値は、回答の平均値を最高7点のスコアで表示したものです。）

質問項目	*（ ）は児童用の質問 児童アンケートには「子どもは」という主語はありません。	実限度（7に近いほど実現できていると考えられます。）				分析・考察
		保護者	低学年	高学年	教職員	
確かに学力	子どもは、授業がわかっている。（学校の授業はよくわかる）	5.3	5.5	5.8	4.6	「話をしっかりと聞き」、「授業がわかる」の児童の実限度は高い半面、「考えを言える」の実限度は低く、保護者も教職員も同様に低い結果になっています。教室の中で、自分の考えを明確にできるような手立て、話し方のルール、語彙の獲得、話しやすい環境づくり等の指導の工夫を今一度見直しながら指導を継続していきたいと考えます。また、人との密なる関わりも「話す」を促進させる大切な要素になってくるので、子どもを取り巻く全ての大人が「まず受け入れる」ということを意識して関わることも大切だと考えています。
	子どもは、めあてをもってあきらめずに学習に取り組んでいる。	5.1	6.1	5.4	4.6	
	子どもは、人の話をしっかりと聞いている。	4.8	5.3	5.6	4.4	
	子どもは、自分の考えをきちんと言える。	4.5	5.2	4.8	4.4	
	子どもは、読書の習慣が身についている。（たくさん本を読んでいる）	4.2	5.6	5.2	4.4	
豊かな心	子どもは、楽しく学校に通っている。（学校に来るのが楽しい）	6.1	6.1	5.7	5.6	学校に楽しく通っていると子どもが感じ、それを保護者も教職員も同じように感じているのは喜ばしい結果です。しかし、子どもの成長に合うきめ細やかな配慮をする必要があります、わずかでも学校生活を楽しめていない子どもへの支援を大切にしていきたいと考えます。「社会のルール」等規範意識については、保護者・教職員の実限度が低いです。とりわけあいさつについて、教職員はその課題を深刻にとらえています。校内での指導はもちろんのこと、校外では地域の方々と連携しながら取り組んでいくことはできないか模索していきたいと思います。
	子どもは、お互いの良さを認め合い、自分も友達も大切にしている。	5.4	6.1	5.9	5.4	
	子どもは、学校や社会のルールを守っている。	5.5	6.1	5.7	4.8	
	子どもは、自分から進んであいさつをしている。	4.4	5.7	5.5	3.2	
	子どもは、ていねいな言葉遣いをしている。	4.3	5.5	4.9	4.4	
健やかな体	子どもは、早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣が身についている。	5	5.5	5.1	5.2	「自分のことは自分でしている」の項目で低学年児童の実限度は6、高学年児童の実限度は5.5と、できている意識が高いです。しかし、保護者、教職員ともに実限度は4.8と児童の実限度と大きく隔たりがあります。保護者も教職員も、児童の日常生活の中で、「更に自分でできること」への期待を寄せていることが推察できます。児童の自主自立の態度を育むためには、私たち大人がお手本となって見せ、声をかけて、一緒に行い、ほめて励ましながら、新しい行動を獲得できるように根気よく指導し続けていくことが大切だと考えています。
	子どもは、自分のことは自分でしている。	4.8	6	5.5	4.8	
	子どもは、外遊びなどでよく体を動かしている。	4.6	5.8	5.4	4.8	
	子どもは、好き嫌いなく食事をしている。	4.4	5.4	5.3	4.6	
家庭・学校・地域との連携	学校は、ホームページや学校だより、学級の学習予定表などで学校の様子を分かりやすく伝えている。	5.5			5.4	「地域ぐるみで子どもを育てようとしている」の項目では、教職員の実現度が5.6と高い評価になっています。下校時の見守り当番や図書ボランティアをはじめ、子どもたちのためにあらゆる場面で家庭や地域の皆様方の多くの協力に支えていただいていることに感謝いたしております。学校は、家庭・地域と連携して子どもたちの成長を見守り、育んでいます。今回の結果から、様々な情報交換をこれまで以上に行い、開かれた地域ぐるみの学校をつくっていくため、ホームページや配布物を通して、広くお知らせしていくことが学校の役割であると考えます。
	家庭では、配布物やホームページなど、学校からの情報を確認している。	5.4			5	
	学校と家庭が子どものことについて、遠慮なく相談できる。	5			5	
	学校・家庭・地域が情報交換し「地域ぐるみ」で子どもを育てようとしている。	4.8			5.6	

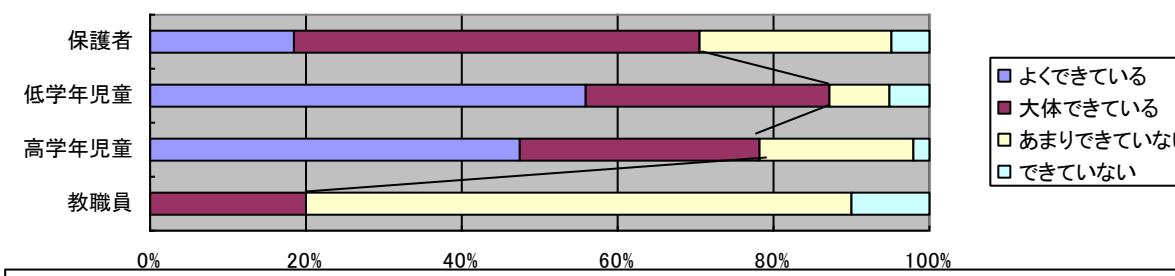
◎3つの重点「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」から、特徴的な項目について分析・考察しました。

【確かな学力】より Q.子どもは、読書の習慣が身についている。



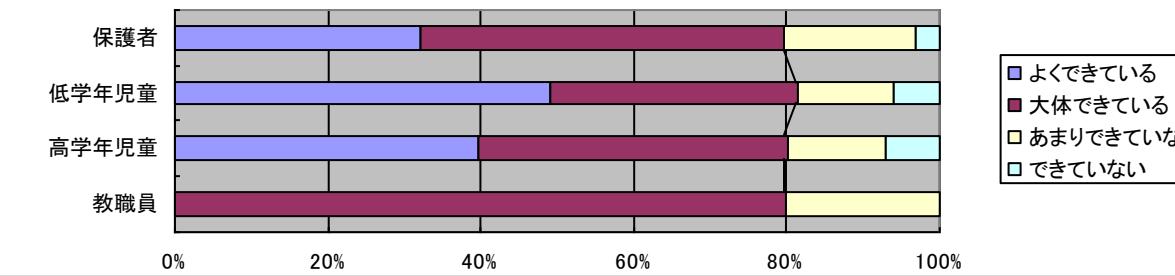
低学年の児童は、半数以上の児童が読書をよく楽しんでいますが、高学年になると半数を大きく下回ります。習い事・塾、部活動等更にやることが増えて、読書する時間を確保すること自体が難しくなってきています。近年、子どもたちを取り巻く社会が情報化され、文字離れが問題になっています。また娯楽の中に電子機器の使用が大きく占め、読書に向かう気持ちが薄らいでいる可能性もあります。学校では、図書委員会、PTA や地域の方による読み聞かせなど、読書への興味や関心を高める取組を進めているところではあります。学校図書館の活用を推進したり家庭学習や自主学習等に読書をしたりと読書は人生を豊かにするものと考え、本を手にとる機会を多くもつようになっていきたいと思います。

【豊かな心】より Q.子どもは、自分から進んでいさつしている。



「自分から進んでいさつをしている」という項目で、よくできている・大体できていると回答している児童が80～90%いるのに対して、教職員は子どもたちのいさつがあまりできていないと感じています。自分でできているつもりであっても、気持ちの良いいさつが進んでできているところには違っています。いさつは社会のマナーの一つであり、人とのかかわりの第一歩として身に付けていきたいことです。互いを認め合い、人と良好なコミュニケーションをとるためにも、日々の大人の姿から子どもも学んでいくのではないかと考えます。大人の姿が子どもたちに反映されていくという意識を大人がもつ必要性を改めて感じています。

【健やかな体】より Q.子どもは好き嫌いなく食事をしている。



「食育」という言葉も珍しくなくなりました。「食べる」ことへの重要性が改めて見直され、学校給食ではより豊かな食をめざして「和(なごみ)献立が設けられています。保護者・児童・教職員の80%以上が大体好き嫌いなく食事をしていると答えていますが、更に多くの児童にたくさんの「味」を知り、おいしく食事をして健康な体をつくってほしいと願っています。

【保護者アンケートの記述欄より】 一部抜粋してまとめた形で掲載

～子育てにおける「あたたかさ」と「厳しさ」について、ご家庭のお考え～

- ・良いことはほめる、悪いことは「厳しい」態度で接する。
- ・叱った後は、いつも以上に「あたたかく」接する。
- ・「あたたかさ」「厳しさ」のベースには深い愛情が必要である。
- ・「あたたかさ」＝「厳しさ」どちらも必要である。
- ・「あたたかく」子どもを大切に思う気持ちがあるからこそ、時には「厳しく」接することもある。
- ・「厳しく」するときは感情的にならず冷静に、「あたたかく」するときは心を全開に。
- ・子どもの行動と気持ちをしっかりと受け止め、叱るとほめるを実行する。
- ・嘘をつかない、人に迷惑をかけないなど基本的なことは「厳しく」、「あたたかさ」は結果よりもプロセスを大切にしてほめる。
- ・自尊感情や自信をもてるような家庭の「あたたかさ」、社会で自立していくためのしつけなどの「厳しさ」どちらもバランスよく子育てをする。
- ・「あたたかく」見守ること、愛ある「厳しさ」。

*たくさんのお考えを記入していただきました。すべてご紹介できませんが、各家庭で、人間関係や親子関係を大切にしておられることを感じました。

【学校運営協議会でいただいたご意見より】

- ・子どもたちは、友達同士の会話の中で、「荒っぽい」「きつい」と感じる言葉で話している場面を見かけるが、目上の人や年長者と話す時は、丁寧な言葉遣いで話しているように感じる。
- ・子どもたちが、地域の方と丁寧にあいさつする姿をよく見かける。決してできないわけではない。大人が進んで気持ちの良いあいさつをする姿を見せていくことも大切。
- ・子どもたちは「ダメです」と頭ごなしに注意されると、なかなか直すことができない。なぜよくないのか理由を説明することで、受け入れ、反省して実行していく。指導の言葉で子どもたちが変わっていくことを感じている。
- ・幼稚園の子どもたちは、小学生の姿を見て「こんな小学生になりたいな」という憧れを抱いている。多くのことを小学生から自然に学んでいる。
- ・アンケートの結果は、結果として受け止め、その数字にこだわるのではなく、子どもたちが安心してより良い生活が送れるように、教職員をはじめ、周りの大人が子どもたちと真剣に向き合っていくことが大切ではないだろうか。
- ・「あいさつをする」「ぬいだ靴をそろえる」など、あたり前のことができるよう、学校に任せのではなく、家庭でのしつけがとても大切である。
- ・きちんとしていても、事件・事故に巻き込まれる時代の中で、地域ぐるみで子どもたちを見守り、声をかけていくことが、これからさらに重要だと感じる。

*貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

教職員一同、地域の皆様と共に「醒泉の子」をしっかりと育ててまいりたいと思います。